**「アフリカの感染症を知る」シリーズ 第13回講演会**

アフリカ協会文化・社会委員会主催「アフリカの感染症を知る」シリーズの第13回講演会です。今回はJICAで国際協力専門員をされている角井信弘氏にお話をお伺いします。

前回は、世界銀行カンボジア事務所上級保健専門官の鈴木千穂氏に、前任地であるタンザニアにおいて調査・研究されました「マラウイの感染症対策」に関してお話を頂きました。

マラウイは世界でも最貧国の一つであり、人口の増加に伴い貧困率が拡大の傾向にあります。その原因としては一人当たりのGDPと農業生産率の低迷があり、特に気候変動による干ばつとサイクロンの被害による農業セクターの打撃が大きく影響しています。結果として水不足と衛生状況の悪化を産み、2022年のコレラの流行時にワクチンの不足など医療設備と医療品の不足が強く懸念される状況となりました。異常気象による感染症の拡大や食糧不足による栄養の悪化など、感染症対策に苦慮する状況の報告が頂けたと思います。

今回お話を頂く角井信弘氏は、協力隊、NGO、JICAといろいろな立場でアフリカでの保健分野の国際協力活動の現場に長年携わり、現在はJICA保健分野国際協力専門員として引き続きアフリカの事業に関わっておられます。今回は、ナイジェリアの乳幼児に対する予防接種の現状と同国ラゴス州滞在時代に予防接種率向上のために行った取り組みについてお話を伺います。

**概要**

日時：　 2025年**1月30日（木）**　14時から15時30分

場所：　 オンライン（ZOOM）

テーマ：　「ナイジェリアの乳幼児に対する予防接種の現状と課題」

講演者：　角井信弘　　 JICA国際協力専門員

司会 ：　池上清子　 アフリカ協会副会長、

公益財団法人アジア人口・開発協会副理事長

**プログラム**

　14時00分　　 開演

　14時00分　　 開催挨拶・講師紹介（池上清子委員長）

　14時10分　　 講演　　　　　　　（角井信弘　JICA コンサルタント）

　15時00分　　 質疑応答　　　　　（司会：池上清子委員長）

　15時30分　　 終了

**講師略歴**

**角井信宏：（かどい　のぶひろ）**

青年海外協力隊員としてケニア、（公財）ジョイセフの職員としてガーナ、ザンビア、タンザニア、JICA専門家としてタンザニア、シエラレオネ、ナイジェリア、とアフリカでの国際協力の現場に長年従事してきた。この間、リプロダクティブヘルス、母子保健、HIVエイズ、サポーティブスーパービジョン、スラム地域における地域保健などいろいろな課題に取り組んだ。現在はJICA保健分野国際協力専門員として勤務しつつ、モザンビークの母子栄養プロジェクトの総括を務めている。

**池上清子：（いけがみ　きよこ）**

国連難民高等弁務官事務所、国連本部、国連人口基金、長崎大学大学院教授などを経て、現在(公財)アジア人口・開発協会副理事長。アフリカ協会副会長。

また、（公財）ジョイセフ、国際家族計画連盟ロンドン本部、（公財）プランインターナショナルジャパン（理事長）、日本赤十字社（常任理事）など多くの市民社会組織（CSOｓ）で経験を積む。一貫して、開発途上国の女性の健康推進、自立支援に携わっている。